



JENが水施設を建設しようとしている村の眺め



JENスタッフが住民の方へインタビュー

※参考:「ウォーターエイド」水格差世界の状況2018年

「パキスタン」 新規事業開始、 安全な水でいのちを守る

〜中央クラム管区の深刻な問題〜

『自宅の近くで清潔な水を利用して
きない人数が最も多い国10ヶ国』の内
パキスタンは9位にランク付けされ
ています。パキスタン全人口2億7百
万人の内、2千万人が安全な水に
アクセスできないと言われています。※
そのため、JENは、アフガニスタン
との国境に位置するパキスタンの連
邦直轄部族地域の中央クラム管区
の帰還民に対して、水衛生施設改
修を中心とした生活基盤改善支援
事業を開始しました。

この地域は、本来美しい森と湧き
水に恵まれています。村や家に水
を引く手段やお金もないので、有効
に活用できません。また、既存の水道
管があつても破損しているうえ、水が
保護されることなく汚染されている
ため、下痢や水因性疾患を引き起
すなど、多くの問題を抱えています。
今後JENは、中央クラム管区に帰
還する人々が一日でも早くこの地域
で安全な水を飲めるように、サポー
トしていきます。

VOICE スタッフの声

仕事を通して 見つけた 私の目標



サマルさん

私は財務会計オフィサーです。
以前公認会計士として働いて
いた団体で、NGOの監査を行う
機会が多く、厳しい状況に置かれ
ている人々を助けたという思い
が強くなり、JENに2014年
に入職しました。私はお金の使い
方に力を注ぐことで、より多くの
人々がそこから恩恵を得られる
ように願っています。支えてくだ
さっているサポーターやドナーの
皆さまに日々感謝しております。

VOICE スタッフの声

JENと共に 困難と 立ち向かう



ナビードさん

当初2005年にJENに入
職しましたが、その後何度か離職
の上、モニタリング・評価オフィ
サーとして再就職しました。その
間、重病を患い大変な時期を過
しましたが、パキスタンの知人
同僚、JEN本部からのサポート
により完全な復帰を果たす事が
出来ました。自分がいるいる学ん
だこの団体を通して今後も世界
中の脆弱な人々をサポートでき
たらと願っています。



1.シンジャール山を走る給水トラック
2.集落ごとに設置された貯水タンクをチェックする
JENスタッフ

「イラク」
イラクでの活動を
他団体に引き継ぎました。

JENは2003年にイラク
事務所開設以来、首都バグダッド
で支援を続ける世界でも数少ない
NGOの一つとして、イラク中部で、
主に学校修復と衛生環境の改善
を約15年に渡り続けて参りました。
また2014年からは北部ク
ルド人自治区にも事務所を置き、
武装勢力から逃れてきた人々への
緊急支援や、帰還後の生活改善
を支援して参りましたが、この度
事務所を閉じるになりました。

治区を拠点とした緊急・復興支援
と帰還民支援は、現地で活動する
他団体に引き継ぎ、①給水設備の
修復による帰還民支援、②国内避
難民キャンプでの給水・衛生促進、
③帰還民の越冬支援を通し、厳し
い環境で生活を続ける人々に引
き続き支援を届けることが可能
となりました。これまで、15年の長
きにわたりJENのイラクでの活
動にご支援くださった支援者の
皆さまに、心から感謝し、お礼を
申し上げます。

ご寄付の方法

JENの活動は、
皆さまの温かいご寄付によって支えられています。

-  **生きるちから
マンスリーサポーター**
あなたの毎月の支援で、世界の人びとの
生きる力をサポートします。
-  **郵便局から**
00170-2-538657
口座名 JEN
-  **ホームページから**
クレジットカードでご寄付いただけます。
(VISA, MASTER, JCB, AMEX)
-  **遺贈寄付**
ご自身の財産や大切な方の遺産を、
JENが支援する世界中の人たちへ、
確実にお届けします。

JEN チャリティ・ワイン会 with コノスルを開催



10月18日青山リビエラにてJENチャリ
ティ・ワイン会 with コノスルを開催しま
した。このワイン会は、コノスル社、株式
会社スマイル、株式会社nakato、キーン・
ジャパン合同会社、多くのボランティア
の皆さまに、たくさんのご協力とご支援
をいただき、実施することができました。
当日は、参加者の皆さまにコノスルの
スーパー・プレミアム「オシオ」や「シ
レンシオ」といったトップレンジからミ
ドルレンジのワインとお食事を堪能いた
だき、ラッフルも大盛況でした。本ワイ
ン会の収益金は、会場費など諸経費を
除いた金額が25万円となりました。この
ご寄付はパキスタンの支援活動に役立
てさせていただきます。

お宝エイド

携帯電話、使わなくなったバッグ、
金券などの“お宝”をご寄付くだ
さい。

www.jen-npo.org/otakara-eido/



BOOK MAGIC

ブックマジック

ブックオフオンラインとJENに
よる、今すぐカンタンに参加できる
寄付プログラム。

www.jen-npo.org/bookmagic/



Fashion Charity Project

ファッション・チャリティプロジェクト

ファッションアイテムを「寄付」
または「買って」社会貢献。

<http://www.jen-npo.org/fcp>



本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

下記の住所へ事務所を移転しました



特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局
〒169-0073 東京都新宿区百人町1丁目21-20
TEL: 03-5937-1780 FAX: 03-5937-1781

ホームページ <http://www.jen-npo.org>
NPO JEN 検索
Japan.Emergency.Ngo @NGO_JEN



共同代表理事・川北 秀人

このたびのJEN職員による不適切な事業執行につきまして、JENを支え応援し続けてくださっているみなさま、また、それに起因してJENの事業を継承してくださった団体の方々には、重ねて深くお詫び申し上げます。

図らずも、2010年春に退任させていただいたJENの代表理事に、再度就任することになりました。皆さまに、また心の底から信頼していただける団体となるべく、役職員が自ら定めた理念や、社会から期待されるさまざまな規範に対して、誠実に、そして適時に判断し行動できるよう、平素はスタッフをしっかり後押しし、時には先頭に立って、努めてまいります。

皆さまには引き続き、どうぞよろしくご支援賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。



副代表理事・尾関 葉子

この度、副代表理事に就任いたしました尾関葉子です。1980年代に難民支援の仕事に携わっていましたが、1993年の東京アフリカ開発会議をきっかけに開発支援、ネットワーク活動へと視点を移し、現在はDADA (Dialogue and Action for Development Alternatives、直訳=新しい発展の形を作る対話と行動)としてジンバブウェの農家グループとの交流を18年続けております。

相手の話を聞き、自分も意見を言い、ひとつのものを作り出す—どんな仕事もそうした「対話」の積み重ねであると思います。緊急救援の分野は門外漢ではありますが、経験豊富な役職員の皆さまと共に、JENの活動が対話を積み重ねて前進するよう努力を重ねる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



共同代表理事・根本 信博

この度、JEN共同代表理事に就任しました根本です。大学卒業後に立正佼成会本部に入職し、以来、主に難民支援分野で働いてきました。インドシナ難民、アフリカへ毛布をおくる運動事務局、UNHCRジュネーブ本部JPO勤務を経て1990年に立正佼成会に復職、その後はアフガニスタン難民、ソマリア難民などの支援活動に従事し、1994年初頭のJEN創設並びに旧ユーゴスラビア難民支援活動の立ち上げに参加、以降、一食平和基金運営や宗教対話・協力活動に従事しています。現在はアジア宗教者平和会議(21ヶ国加盟の宗教間対話・協力運動体)の事務総長を務めています。

2012年からは人道支援活動への取り組みを更に深めるために大学院で、人間の安全保障領域での研究にも取り組んでいるところです。

JENの新生に向け、誠心誠意、情熱を持って皆さまと心ひとつに取り組んでいく覚悟ですので、よろしくお願い申し上げます。



理事・木山 啓子

代表理事を交替し、理事・事務局長を拝命した木山啓子です。

4月27日に不適切行為を発表してから、多くの方にさまざまな形でお叱りや励ましをいただきました。それを通して、人と人とのつながりの大切さとありがたさが、深く心に染み込みました。私たちはこうした応援を糧にして、再生に向けて歩みを進めているところです。根本に立ち返って、大切なことを大切にしていこうと改めて構築したいと考えています。

これからのJENの支援は、これまで以上に被災者の方々自身が主体となって、人と人とのつながりを繋ぎ直せるような支援を、支援者の皆さまと共に目指していきたいと考えています。

これからも、温かくそして厳しく、ご支援くださいますようお願いいたします。

2018年も温かいご支援ありがとうございました。
今年も年末募金のご協力をお願いいたします。
皆さまからの募金はJENの支援活動に活用させていただきます。



1.ザータリ難民キャンプにて
2.ホストコミュニティチーム@アンマン事務所

「ヨルダン」 ヨルダンでの活動を 終了しました

JENは2003年にイラク支援のサポート事務所としてヨルダン事務所を開設し、活動を続けてきました。既にアンマンに事務所があったため、2012年にシリア難民が流入し始めるとすぐに調査を行い、支援を開始することができました。以来、約6年間に渡り、ザータリなどの難民キャンプやヨルダン各地の受け入れコミュニティの学校において、支援活動を行いました。JENは、主に①難民キャンプでの水衛生環境改善のための上下水道の設置・修繕、衛生教育、越冬支援、メディアプロジェクト、生計向上支援

②ホストコミュニティ(難民キャンプではなく地域で難民を受け入れているコミュニティのこと)では難民の半数以上を18才以下の子どもが占めることから、学校の修繕、増築、衛生教育等を行いました。中でも、長い間苦しい避難生活を余儀なくされている若者たちが、メディアプロジェクトを通して、再び希望を取り戻し活動する姿に、関わらせていただく私たちも希望を与えられました。これまでの15年の間、私たちの活動を支えてくださった多くの支援者の皆さまに、心から感謝いたします。

「東北」 福島県助産師会での 『振り返り』ミーティング

10月に東北事業のパートナーである福島県助産師会第2四半期の『振り返り』ミーティングが実施されました。助産師会の活動は、子育て・女性の健康支援センター事業、助産所での母乳育児支援、助産師のいる子育てサロンなど多岐にわたります。ミーティングは、①What、②So What、③Now Whatの3つの問いに対して、考えをめぐらすことで原因と今後の考え方、やるべきことを確認できるという手法で行いました。福島県助産師会代表理事である小谷寿美恵様を筆頭に職員の皆さま

まの前向きかつ積極的な姿勢に大きな刺激を受けました。また『振り返り』後、皆さまとの会話で「おんぶの大切さ」のお話を聞きました。最近赤ちゃんを前抱きすることが多いですが、災害時などに役に立つのは「おんぶ」だそうです。背負うことでまず走りやすくなる、また産後などをよじ登るなどできる。乳幼児のいらつしやる方は「おんぶ」ができるようになることがおすすめです。今後「おんぶ」の普及活動もしていきたいという熱い思いを伺いました。JENは今後も福島県助産師会の皆さまの活動を応援していきます。



1.福島県助産師会での振り返りの様子
2.福島県助産師会の事務所にて